

[北方林業研究室]5. ヤチダモ人口造林木の側枝抑制試験

青木, 尊重
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

中島, 誠
九州大学農学部附属演習林 : 助手

今田, 盛生
九州大学農学部附属演習林 : 教務員

<https://doi.org/10.15017/1456201>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和39年度, pp.82-83, 1965. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



閉度で処理することはやや困難であるから、今後は間伐率を基準にすることにした。

5. ヤチダモ人工造林木の側枝抑制試験

青 木 尊 重 中 島 誠
今 田 盛 生

I 研究の目的

ヤチダモの人工造林地において、ヤチダモ以外の萌芽木を適当に整理残存せしめ、ヤチダモとの混交林を造成することによつて、ヤチダモの側枝の発達を抑制し、枝下の高い、直通な利用価値に富んだ造林木を育成しようとするもの。

II 方法および経過

昭和35年10月25日に6林班は小班内のヤチダモ人工造林地(昭和28年度植栽)内に試験地を設けた。この造林地には造林木であるヤチダモ以外のミズナラを主とする萌芽木が発生伸長して、ヤチダモとの混交状態をなしているが、この地域内の比較的立地の均等した区域を選定し、混入している萌芽木を整理し、残存萌芽木の立木度を異にする5区を次のように設定した。

	第 I 区 (皆伐区)	第 II 区	第 III 区	第 IV 区	第 V 区 (対照区)
20 m	0 本	3,500 本	5,000 本	7,000 本	20,000 本
	25 m				

〔注〕 1)プロット内数値は残存萌芽木本数

2)残存木本数はHA当換算

昭和38年4月26日の第1回目測定につき本年4月15日に第2回目の測定を実施した。その結果は次のとおりである。なお、測定方法は各区につき各々10本のヤチダモ標準木について20cm以上の枝の本数および長さを測定するものである。この場合、側枝とはもちろん、樹幹より直接発生しているものに限定する。

区	残存萌芽木本数	側枝総本数	1本当平均側枝本数	側枝総枝長	1本当平均側枝長
第Ⅰ区	0 ^本	80 ^本	8.0 ^本	5,666 ^{cm}	70.8 ^{cm}
第Ⅱ区	3,500	90	9.0	5,497	61.1
第Ⅲ区	5,000	69	6.9	3,721	53.9
第Ⅳ区	7,000	66	6.6	3,806	57.7
第Ⅴ区	20,000	63	6.3	4,159	66.0

Ⅱ 考 察

- (1) 1本当平均側枝本数は、第Ⅰ区、第Ⅱ区においては抑制効果が逆になつてゐるが、おおむね本数は減少しており、効果があらわれてゐるとみなしてさしつかえない。
- (2) 1本当平均側枝長については、第Ⅲ区が最も短く、第Ⅰ区が最も長い。したがつて、抑制効果は、それほど明確にはあらわれてゐない。
- (3) いずれの抑制効果も、これが結論的なものでなく、今後の変化が推察されるので、ひきつづき変動推移を調査してゆきたい。

6. 固定標準地による北海道演習林カラマツ 幼令林の成長推移と被害状況の調査

青 木 尊 重 中 島 誠
柿 原 道 喜 今 田 盛 生

Ⅰ 研究の目的

北海道の主要造林樹であるカラマツは、十勝地方ではことに普及度は高く、本演習林においても主位を占め、その造林面積は年々増大の一途をたどつてゐる。しかるに、本演習林は創立以来日をお洩く、カラマツ植栽林の実態は充分に把握されていない。そこで、昭和33年7月に1年生造林地より10個の固定標準地を設定して、連年被害状況ならびに樹高、直径成長を調査するものである。